

千年の森便り No.166

2017.05. 26

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

5月21日(日) 晴

参加会員は秋元、伊藤、鶴沢、栗山、坂本、高橋洋子、田島、成沢、根本、福島、細谷、松田、真鍋、山口、「初夏の豊英島と清和県民の森ハイキング」案内に応募して、埼玉県富士見の石井ご夫妻、船橋の川島さん、佐倉の森崎さん、相葉さん、友塚さん、寺村ご夫妻、白井の相馬さん、四街道の市原さんが参加され、総勢 24 名。5 月最高の気温を記録したこの日、午前中は坂本代表の案内で清和県民の森の初夏を観察、午後は福島会員の案内で豊英島の自然を楽しみました。

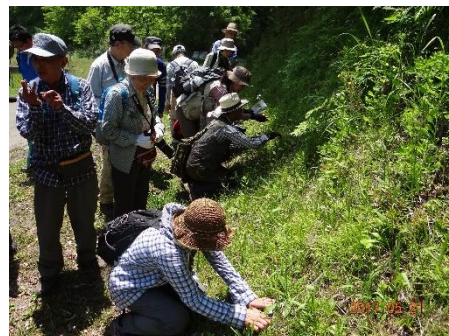


遠路ご参加いただいた皆様お疲れ様でした。また、この日は県民の森ハイキングの午前中、オオカミツアー「自然観察会」in 千葉の豊英島案内もありました。(真鍋)

○初夏の豊英島と清和県民の森を楽しむハイキング案内記

2012 年に初の試みとしてスタートした公開行事のハイキングは今年で 6 回目ですがコースは毎回少しずつ変えて今回に至っています。

21 日は会員 11 名と会員外のゲスト 10 名で県民の森駐車場から林道を歩いて、島を見下ろす旧道の高台まで行き、最後の国道部分からは車での移動となりました。概ね予定時間通りに島に入れましたから、この段取りで良かったと思います。



オオバウマノスズクサの花

毎回 5 月の開催ですから目につく植物に大きな変化はありません。ジャケツイバラ、ハコネウツギ(ニシキウツギ)ヤマツツジ、コケリンドウなどが今年も見られました。その中でオオバウマノスズクサの花が見られたのは収穫でした。(写真) 植物大好きのある人は初めて見たと感激の様子でしたので案内の甲斐がありました。

正月飾りに使うウラジロ(羊歯の一種)について話した時、松田さんからこの羊歯の葉柄を使った子供の遊びを



教えてもらい、実演もしてもらいました。元気な子馬が嬉しくてジャンプするような動きが新鮮な体験でした。単に植物の名前を言うより、ずっと記憶にのこるので、私もこれからの出し物に使わせてもらいます。遊びの名前は確かぴょんぴょん馬と聞いたと思いますが、正しいか後で教えて下さい。ぴょんぴょん馬遊び?(友塚撮影)

埼玉県富士見市から前泊して、この行事に参加して下さった石井さんを始め遠来のお客様には房総の自然を楽しんでもらえたでしょうか、会報にご感想ご意見が届くと思うので今後の参考にします。

野鳥関係では姿は見えなかったものの、囀りの美しいウグイス、オオルリ、キビタキに加えサンコウチョウの声も林道で確認できました。尚、今月は島内の野鳥調査の時間が無く記録はありません。

講師サポートや観察会を途中で抜けて送迎のため、何往復もしてくれた方、島に先行して危険木の処理など裏方に徹して受け入れ準備をしてくれた方、手作りのおいしい料理を持参してお昼を盛り上げて下さった会員各位のおもてなし精神に感謝しています。(坂本)

○午後の豊英島散策ご案内

午後、県民の森ハイキングに参加した皆さんと豊英島を散策しました。

巨木林エリアを中心に、豊英島の植生、ニホンジカによる植生への影響、数年前の雪害の影響、ヒメコマツの植栽試験の状況などを観察しました。シュンランやエビネは花が終わり、一部に種が出来始めていました。また、ヒメコマツの柵内ではツチアケビの花茎(3本)がのび始めていました。(福島)



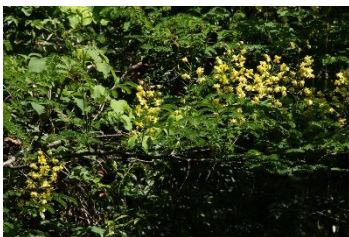
楚々として可愛らしい花々が出迎えてくれる林道歩きは素晴らしかった

(寄稿) 佐倉市 寺村敬子さん

2013 年以来 2 度目の参加です。

水分補給を心掛けないと熱中症になりかねないような天気でしたが、あっちもこっちも嬉しくて、いつの間にか最後尾、ペースを乱す張本人だったのでは、と反省しております。

ジャケツイバラ、ドクウツギ、コゴメウツギ、マルバウツギ、ヤマツツジ、ヤマボウシ等をアクセントとし、楚々として可愛らしいニガナやオニタビラコの花が常に出迎えてくれる林道歩きは素晴らしかったです。ジャコウアゲハが目につくようになると、人生初、生のオオバウマノスズクサのおかしな恰好の花も見られて感激！水の染み出す斜面のモウセンゴケの周りには、ブルーの小さなコケリンドウが散りばめられているのが素敵でした。



ジャケツイバラ



モウセンゴケ



コケリンドウ



誰の落とし物??

島への吊り橋には、誰かさんの落とし物(ペレット?それとも大きな種ばかりの糞?)、施錠など関係なく動物たちが昼夜ここを利用しているのだと思うと微笑ましい。

この日のメイン行事の島内のご案内では、植生を変えてしまう鹿も駆除せずに共存して行く方法を考え、見守っているとのお話が印象的でした。それにしても鹿避けのネット囲いの内と外の植生の違いには驚きです。囲いの外では、緑が多く見えてもそのほとんどがアセビなのですから・・・かつては足の踏み場もないほどカンアオイがあったというお話も聞きました。計画的に調査、実験、保護、手入れがなされている千年の森づくりの皆様の活動には頭が下がりますし、ロマンを感じます。ありがとうございました。



ネット内外の植生の違い

清和県民の森～千年の森観察会に参加して

(寄稿) 埼玉県富士見市 石井栄・直子ご夫妻

この度は、観察会に参加させていただきましてありがとうございました。

里山暮らしへの憧れから、これまで森林管理などのイベントに参加しましたが、今回の観測会というアプローチは初めての事でしたので、見るもの聞くものが初めて知ることも多く、とても新鮮でした。

固有種の保護、と耳にはしますが、具体的なことを全く知らずにいましたので、こうした地道な努力の積み重ねがあってこそ、我々が今、見て楽しむ事が出来るのだな、とあらためて感謝です。最初に紹介されたジャケツイバラに発想を得たり、普段と違った目で植物や昆虫に触れる貴重な体験が出来ました。

是非また参加させていただきたいと思っています。とても親切にご指導いただき、お昼は山の幸をご馳走になり、最後にはタケノコのお土産までいただき、本当にありがとうございました(^ - ^)

5月21日の観察会に参加し、皆様には大変お世話になりました

(寄稿) 佐倉市 相葉洋一郎さん

私が始めて清和地域の自然と触れ合ったのは中学生の頃、長狭町（現在は鴨川市）から三島ダムまで道なき道を歩いて訪れた時です。当時は見たことも無い珍しい植物に驚いて大いに興奮したものです。

50年以上経過した今、この山中でカンアオイやミヤマウスラと再会して大変感激しました。しかしながら、囲いの中で細々生存しているミヤマウスラには痛々しさが感じられました。今もこの様な植物が生育している清和の環境は貴重で限られたものです。先ずは房総の中央部にこの様な素晴らしい植生を持つ環境が今も存在していたことに安堵しました。この環境が何時までも維持されることを心から願っています。

一方、近年急速に増殖している野生動物の食害によって植生に危機があることも承知しています。イノシシ、シカ、サル、などの増殖によって里山の維持が困難になっている事は容易に想像できます。大自然の森を以前の様に維持するには温暖化、酸性雨、害獣など幾つかの障害が生まれています。自然を手付けず守る状況は難しく、管理して守るのも経費や労力に限界がある事も承知できます。

今回は千年の森をつくる会の会員の皆様の活動によって、ヒメコマツや、シュンランなどが大切に保護されていることを知りました。

初めて観察訪問した私たちに対し会員の皆様の暖かいおもてなしの心がしっかり伝わりました。素晴らしい観察会でした。7月の観察会を楽しみにしています。有難うございました。

〇オオカミツアー「自然観察会」in 千葉の案内記

清和県民の森ハイキングが行われていた午前中、一般社団法人日本オオカミ協会千葉県支部が主催する自然観察会があり、井上支部長さん以下8名の参加者を案内しました。

自然観察会では、会が豊英島で行っている生物多様性の森づくりの活動、シカの食害を受けやすい植物や受けにくい植物の話、植物の保護と二ホンジカによる摂食圧の調査のために植生保護柵を設置している状況、個体数調査の実施状況などについて解説しました。(福島)

○昆虫観察記録

気温がぐんぐん上がり、夏のような暑さ。虫日和となりましたが、虫の姿はそれほど多くありません。イラクサの仲間にフクラスズメの幼虫がおり、近づくくと、上半身を激しく震わせます。これを見て、参加者の皆さまは大盛り上がり。栗山さんが手招きするので大急ぎで行ってみると、鮮やかなブルーのホソミイトトンボ。成虫で冬を越すトンボで、冬は地味な枯葉色をしています、春に青い色に変身します。「黒いチョウがいたよ」とモンキアゲハの写真を撮られた方もいらっしゃいました。

豊英島では、ジャコウアゲハがあちらこちらで飛んでいます。大きなオオスズメバチに皆さん怖がっていましたが、今の時期は、まだ働き蜂は出ておらず、女王蜂なので攻撃的ではありません。クチクシヒゲムシ(千葉県要保護生物)という変な虫？が、幹でじっとしています。これはメスですがオスは櫛のような立派な触角があります。2年前に死骸を見たのですが、今回、生きている



ジャコウアゲハ♀

のを見られてうれしかったです。

(清和県民の森～豊英島) フタスジモンカゲロウ、ホソミイトトンボ、シオヤトンボ、シオカラトンボ、ヤブキリ幼虫、フキバッタ sp 幼虫、ホシハラヒロヘリカメムシ、ハラヒロヘリカメムシ、シロオビアワフキ幼虫、アオカミキリモドキ、アオジョウカイ、クマバチ、ホソヒラタアブ、マガリケムシヒキ、モンキアゲハ、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハ、ヤマトシジミ、モンシロチョウ、キタキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、ホシベッコウカギバ、ホソオビヒゲナガ、ベニヘリコケガ、オカモトトゲエダシャク幼虫、クロモンキリバエダシャク幼虫、クワゴマダラヒトリ幼虫、フクラスズメ幼虫、アカタテハ幼虫、ホタルガ幼虫、ヤマトシリアゲ

(豊英島) モリチャバネゴキブリ、ヤマトシロアリ、フキバッタ sp 幼虫、ツチイナゴ、ヘラクヌギカメムシ、シロオビアワフキ幼虫、ツマグロオオヨコバイ、ニワハンミョウ、クチクシヒゲムシ、アオハナムグリ、クロウリハムシ、ヤツボシハナカミキリ、オオスズメバチ、トゲアリ、オオイシアブ、ホソヒラタアブ、ジャコウアゲハ、ヒメウラナミジャノメ、ウンモンクチバ (田島)

○ツチアケビが芽を出しました

ツチアケビがマダケ林(自生地 A)に2本、千年広場南(自生地 C)に1本、巨木林保護柵内(自生地 D)に3本芽を出していました。島入り口(自生地 B)は今年も発芽がありません。今年初めてヒメコマツ保護柵内の落葉樹(コナラ)の倒木に沿って、花茎3本福島さんが見つめました。合計9本。ヒメコマツ保護柵内を新たに自生地 E としてモニタリングを継続します。自生地 E の花茎は他の自生地に見られる病的な傾向がなく、生育状況が健全に見えます。モニタリング状況は結実後の8月に報告します。(真鍋)

(注) 4月定例活動日に秋に撤去したツチアケビ自生地の食害保護金網設置を忘れて散会し、5月発芽のツチアケビがシカに食われる恐れがあったため、4月定例日の翌日、新井通子さんに入林して金網かけていただき、食害を免れました。新井さん有難うございました。



フクラスズメ幼虫



ホソミイトトンボ



クチクシヒゲムシ♀



ヒメコマツ柵内にツチアケビ

お知らせ

〇6～7月の活動

6月23日（金）の臨時活動

ボートで湖上から崖地の植物調査を予定しています。もしかするとアワチドリが発見できるかも知れません。参加申し込みはメールで坂本まで、saka.nabana@catv296.ne.jp です。

9時に鎌田屋旅館前に集合、乗船定員や救命胴衣の関係で申し込み順に6名限定とします。

6月25日（日）定例活動日

9時30分君津市清和自然休養村管理センター集合、シカ個体数調査 水辺環境整備、危険木処理、植物・野鳥・昆虫調査、ヒメコマツ周辺下刈など計画しています。

7月26日（水）夏のきのこ観察会

今年は県中央博企画展「きのこワンダーランド」開催のため吹春講師のご都合がつかないところ、無理やりお願いして水曜日の7月26日になりました。清和県民の森駐車場9時30分集合です。例年通り一般参加行事です。平日仕事の方には申し訳ありませんが、万障繰り合わせてご参加下さい。

〇県中央博企画展「きのこワンダーランド」

7月22日（土）から中央博で「きのこワンダーランド」が開催されます。夏は子供も楽しい展示とイベントが盛りだくさんです。「ランときのこと森の不思議」など興味深い講演会も企画されています。中田裕史君提供の豊英島名物巨大コウタケも展示されるかも。6月15日まできのこ展ボランティア募集中です。会員の皆様、積極的に応募してご協力ください。詳しくは下記URLをご覧ください。

http://www2.chiba-muse.or.jp/index.php?page_id=1074

